



伊豫簾 古瀬戸尻張茶入

中興名物

高6.8cm 口径16.5cm 胴径5.75cm 底径3.0cm 重85g

この茶入は尻膨の形であるが、あみ笠のようにも見える。釉掛りがまばらなところから、小堀遠州が伊予簾の古歌を連想して銘としたものと思われる。

「あふことはまはらにあめる伊よすたれいよ々我をわひさするかな」の歌意によったのである。茶入としては肩先がきっかりとしており、釉立は黒釉に鶉の斑模様で、その中に簾のような縦横の筋がある。仕覆は四つあり遠州好とされ袋の箱書も遠州筆となっている。

目 次

●愛知県博物館協会総会報告.....	2
●愛知県博物館協会総会（意見交換）.....	3
●新加盟館紹介.....	7

昭和58年度 愛知県博物館協会総会報告

4月26日（火）名古屋市昭和区の昭和美術館にて52名の出席により、総会が開催されましたので御報告いたします。

1. 会長あいさつ 愛知県陶磁資料館長 奥田信之
2. 開催館あいさつ 昭和美術館長 柳沢幸輝
3. 表彰 功労賞 徳川美術館 木下 稔

愛知県文化会館 磯野英男
名古屋市博物館 上村喜久子
市立名古屋科学館 後藤久雄
市立名古屋科学館 花立ゆき子

奨励賞 熱田神宮宝物館 井後政晏

感謝状 前愛知文化会館長
（前愛博協会会長）片山和夫

4. 新加盟館紹介

碧南市青少年海の科学館・碧南海浜水族館
名古屋昆虫館
三河武士のやかた家康館
岡崎信用金庫資料館
美和町歴史民俗資料館
東郷町郷土資料館
清洲貝殻山貝塚資料館
財団法人ヒマラヤ美術館
三好町立歴史民俗資料館
和紙のふるさと展示館
財団法人リトルワールド
一宮市教育委員会博物館建設準備事務局
常滑市民俗資料館
吉良町歴史民俗資料館
蟹江町歴史民俗資料館
（新加盟館の概要は順次御紹介いたします）

5. 議題

- (1) 昭和57年度事業報告及び決算報告 承認
- (2) 規約の改正 実行委員委嘱・事務局委嘱の明記及び会費改訂 承認
- (3) 昭和58年度事業計画及び予算案 承認
- (4) 役員補充について 金子副会長辞任にともなう副会長に熱田神宮宝物館長岡本健治、理事補充として豊橋市美術博物館館長白井時吾の各氏が選任される。

総会後昭和美術館展示室等を見学して盛会のうちに終了しました。昭和美術館の皆様には多大なる御協力を得ました。

愛知県博物館協会役員名簿（昭和58年度）

役職名	館 名	役職名	代表者名
会 長	愛知県陶磁資料館	館 長	奥田 信之
副会長	熱田神宮宝物館	館 長	岡本 健治
理 事	荒木集成館	館 長	荒木 実
〃	財団法人日本モンキーセンター	所 長	大沢 済
〃	市立名古屋科学館	館 長	佐藤 和雄
〃	知多市民俗資料館	館 長	杉崎 章
〃	徳川美術館	館 長	徳川 義宣
〃	名古屋市博物館	館 長	浅井 岬一
〃	博物館明治村	館 長	関野 克
〃	豊橋市美術博物館	館 長	白井 昭吾
監 事	愛知県文化会館	館 長	中川 多津巳
〃	財団法人岩田洗心館	理事長	岩田 不二子

愛知県博物館協会実行委員名簿（昭和58年度）

所 属	役職名	氏 名
愛知県陶磁資料館	学芸員	浅田 員由
荒木集成館	館 主	荒木 実
熱田神宮宝物館	係 長	山田 蓉
財団法人日本モンキーセンター	部 長	広瀬 鎮
市立名古屋科学館	部 長	三輪 克
知多市民俗資料館	書 記	浅井 紀子
徳川美術館	課 長	木下 稔
博物館明治村	課 長	海老沢立志
名古屋市博物館	係 長	安達 厚三
財団法人岩田洗心館	館長代行	岩田 正人
愛知県文化会館	主 事	磯野 英男
豊橋市美術博物館	学芸員	河合 正樹

愛知県博物館協会事務局

愛知県陶磁資料館	課 長	桜木 廉
〃	主 査	峰 一臣



6. 意見交換

座長（御園自然学習村所長 金子功） ただいまより、昭和58年度総会に伴う意見交換会を開催いたします。

昭和39年1月16日に11館で出発した、この愛知県博物館協会も来年の1月で満20年に成ろうとしております。当初から協会に首を突っ込んで居るのは、私とモンキーセンターの広瀬先生と2人だけに成ってしまいました。発足当時から存在して居った館も、館長さんも変わられたりしましたが、今では50数館と多く成ったものだと思っております。

ただ、そうなると、当初11館の貧弱な規模で行なって居った事業を、そのまま踏襲するだけでなく、新規加入館を含めた60館近くで行なう協会として、新たに発足するつもりで御意見を出していただいた方が良いのではないかと思います。

この様な総会は、皆様が承知していただいて居る事を前提に話が進んでまいります。例えば、来年度事業計画の中で三県交流研究会・東海地区連絡協議会と言う項目が出て居りますが、新規加入館の方には何の事か御理解できかねる事ではないかと思われま

す。この際これは何だろう、と言う事を指摘していただき、将来協会がどの様に進んでいった方が良いか、率直に御発言願えたらと思います。特に発言願いたいのは、新しく御加入いただいた館ですが、加入された館は、加入することに依って何かメリットがあると思われて御加入なさったと存じますが、それを皆様の口から直接お聞きしたい訳です。それに依って、来年度以降の協会運営の参考になればと思っております。来年度は、21年目に入る訳ですし、役員改選の時期でもありますので、協会の機構そのものも改める必要があれば改めなければならないとも思います。

皆様の活発な御意見をお願いしたいと存じます。

そこで最初に、先程の三県交流研究会と東海地区博物館連絡協議会の事につきまして、三県交流研究会については明治村の海老沢先生から、東海地区博物館連絡協議会についてはモンキーセンターの広瀬先生から簡単に御説明願いたいと思います。先づ、モンキーセンターの広瀬先生よりお願いします。

モンキーセンター広瀬 広瀬でございます。東海博発足に関係した1人として簡単に御説明いたします。

この東海地区博物館連絡協議会は、5県の組織でございますが、最初神奈川県博物館協会の方々が愛知県に來られた折、相互に勉強会を開こうと言う事に成り他県との交流活動が始まった訳です。現在、山梨・神

奈川・愛知・岐阜・静岡の5県で事務局を持ち回りしながら、博物館相互の事業活動そのものを進行していくという形態で年1回の総会・研究会を進めております。

この様に、県を越えて5県の人々がお互いに博物館事業を語り合うと言う事は、単に親睦を深めるだけでなく、来たるべき博物館の将来を定め、博物館のニーズにどの様に対応して行くかと言う事をも含め話し合ってきたことが、長い間この会が保たれて来た要因のように思われます。

幸いこの東海地区博物館連絡協議会の担当が再び愛知県に回ってまいりました。この持ち回りは事務局にとって大変な仕事でございます。お聞きするところによりますと、会への出席は経費・人員等色々な面で問題がある様ですが、特に若い学芸員の方が博物館の将来の目標を定めて行くと言う事に関心を示され、派遣も活発になって居る様です。又現在実行委員会で、東海5県の博物館の進み方について論議の場を設けようと奔走されております。

東海地区博物館連絡協議会は、現在形の上では日本博物館協会の東海支部という扱いを受けて居りますが、元来そういう活動とは別に5県の博物館関係者が集まり組織されたものがその出発です。故に日本博物館協会へ入会してないので、この会へ入会できないという事は全くないのです。

以上御報告終わります。

座長 ありがとうございます。

皆様の中には、この会に神奈川県が入って居る事に疑問を持たれる方があるかと存じます。即ち神奈川県は、関東地区に入るべきではと思われる方もいらっしゃると思いますが、当時2つの考えから、神奈川県は東海地区連絡協議会に参加しております。その1つとして、当時箱根以西は博物館の数も少なく、神奈川県を東海地区の博物館で面倒を見てほしいと言う日本博物館協会の考えがあり、他の1つは、前述のモンキーセンターと神奈川県博物館協会との研究交流会から誕生したという側面があります。

この様な状況から、神奈川県とは行政的区分と異なった形態ができ、現在にいたっております。それとは別に、行政上の関係から生まれたのが、愛知・岐阜・三重の三県交流研究会です。この事につきましては、明治村の海老沢先生から御報告願います。

博物館明治村海老沢 海老沢です。座長さんのお話しにもありました様に、三重県と愛知県とでは県を接して居るにもかかわらず、博物館として交流が無かった

のですが、昭和50年頃だったでしょうか、愛知県博物館協会の主催で、県外研修を行なった事がありました。その折三重県の鳥羽水族館を中心に見学を実施しましたが、その折、中村館長さんとお互いに県単位で交流会を開催してみようと言うことに成り、担当の県が会場を提供し、才1回を愛知県名古屋城で開催致しました。

その後交流を深めて居る内に、岐阜県博物館協会から参加の申し込みがあり、3県交流研究会に成った訳です。

昨年は事業報告の通り、岐阜県の当番で実施されましたが、見学会等で会費とは別に当番県の負担が年々増加し、一考を要する意見もありましたが、この点も将来検討し、せっかくの研究会ですので、今後とも存続させて行くべきであると言うのが、大多数の意見でした。

今年度は三重県が当番県で秋に実施されるものと思います。どうぞ御出席下さい。

座長 ありがとうございます。

さて、今年度の東海地区博物館連絡協議会は、6月2・3日両日愛知県の当番で行なわれますが、実行委員会では計画が練われ、かなり内容が煮つまっていると聞いて居りますが、そのあたりを岩田洗心館の岩田先生より御報告いただきたく存じます。

岩田洗心館岩田 岩田です。御報告致します。

会場は犬山市入鹿池にあります「レークサイド入鹿」で、今回の目玉は、オープンしたばかりの「リトルワールド」の見学と言う事に成ると思います。従来は定例の総会と講演会、夜は親睦会、翌日は見学会というのがパターンでしたが、このパターンですと、参加者の多くが、各館の館長、もしくは館長代理といった人々に限られてくると言う意見もあり、今年は新しい企画をやってみようと言う事に成り、総会はできるだけ簡単にして、その後の講演会を、実際の博物館運営に現われる問題点についての報告と討論会の場にしようと言う事に成りました。

つまり、この積み重ねが、実質的に東海地区博物館連絡協議会自体の内容充実に結び付くと言う考えで計画した訳です。

討論会のテーマは、今回が最初ですから「各県博物館協会の現状と課題」と題して進めて参りたいと思っております。漠然とした内容ですが、各県の博物館協会が加盟館に対して、どの様な意義を持ち得ているかを知りたいと言う事です。その事例報告を受けた後、より将来性のあるものにして行くにはどの様な努力を

すべきかと言う突込んだ意見が出ればと思い、問題を提起してみました。

これにはかなりの準備が必要であろうと思いますし、また事例発表者は各県協会の代表者の形を取りますので、各県への依頼はすでに済せて居ります。

以上が現在までの進行状況です。

座長 ありがとうございます。

以上の様なところが愛知県博物館協会の現況ですが、特に新加盟館の方々には御理解できなかった所も多々あったと思います。新加盟館の中には協会に対しかなり期待を持たれて居られる館もあろうかと存じますが、皆様方の御意見をお聞かせ願いたく存じます。



蟹江町の歴史民俗資料館の方、お聞かせ下さい。

蟹江町歴史民俗資料館長尾 今皆様のお話を聞き、特に要望と言うものは持って居りません。ただ当館としては、比較的無関心と言われている成人層、青年層に対する博物館運営の理解について論議をしたり、対応策があれば参考にさせてもらえるのではないかと考えて居る次第です。

座長 ありがとうございます。次に三河武士のやかた家康館の方どうぞ、

三河武士のやかた家康館野田 今日初めての事で、これと言った要望はありませんが、当館は人文系の博物館ですから、企画展・特別展の実施に関する色々な苦労話や展示技術等具体的に対応できる様な話題の場を作っていたいただければと思って居ります。

座長 ありがとうございます。比較的規模の小さな2館にお聞きしましたが、規模は小さいと申ししましても、公立もあれば私立もあり、種々の要望もあろうかと存じます。新加盟館ではありませんが、個人館と申し上げてもよい館が数館あります中で、ヨコタ南方美術館の方どうぞ、

ヨコタ南方美術館横田 横田でございます。私は以前から申し上げておりますが、種々の面において大型館と小型館の格差がひどすぎると思う。人員・予算の面

にも大きな違いがあり、これを同一の問題で論ずる事に問題があると思う。研究会等でも、大型館と小型館とに分ける必要がある様に思う。仮に小さな問題であっても対処の仕方は大型館と小型館では異なり、分科会もこの様な区分の分科会を実施した方が我々には参考になる。

これが私の考えです。

座長 ありがとうございます。

小型館の御意見は私の実施したアンケートにもありましたが、その中に、研究会も難しいものでなく、初歩的な研究会、レベルを下げた研究会を実施してほしいとの要望がありました。特に歴史民俗系の小型博物館では専門職員もいない館もあることと思います。確かに小型館の要望の通り、簡易な研究会も必要ですが、このような研究会ばかりですと、いつまでたっても進歩しない訳ですし、また専門職員を多く有する大型館にとってみれば、何のメリットもないと思われます。しかし、小型館にとってみれば、協会に大型館が加盟している事は大変メリットがある訳で、大いに指導性を発揮してもらいたいと思います。名古屋市博物館の方が居られますので、この点につきましてお話しをいただかせませんか。

名古屋市博物館久住 副館長の久住です。今御指摘いただいた点で思いあたりますのは、確かに大きな館だから勝れて居るかということ、決してそうではありません。やはり、皆様に色々と教えていただかなければならない所が多くございます。組織も大きく、予算も大きく、建物も大きくなると立派なことをやっているだろうということですが、内状はどの館も同じ様な悩みをもって居る訳です。職員数も分館等を入れますと100名近い人数ですが、基本はやはり学芸員の資料収集・調査保存ということが博物館の使命であると思われます。行政的な要請もありますし、常時展覧会を実施しなければならぬ様な気もしますが、やはり基本の資料の収集・調査研究は大館も小館も同じではないかと思います。

私共で、愛知県博物館協会へ何らかのお力添えができるという事であれば、既存の設備を利用した保存上の事ではないかと思います。例えば燻蒸の問題ですが、当館には燻蒸の機械もあり、技師も居りますので、御相談に応じられると思います。

座長 ありがとうございます。

小型館ですと、先程の名古屋市博物館の様な人材も設備も無く、博物館の運営上どうしたらよいか判らないということになりがちですが、この点については後に話題を拡げてゆきたいと思います。歴史的な博物館

の立派な館としては名古屋市博物館があり、科学的な面では名古屋市科学館がありますが、先程科学館の三輪先生から、コンピューターを使った資料の整理のお話しがありましたが、その件で三輪先生から判り易くお話しをしていただかせませんか。

名古屋市科学館三輪 科学館の三輪です。座長さんから今お話しがあった様な大それた話しではありませんが、たまたま昨年マイコンを少し複雑にしたものを、展示品として購入する機会があったものですから、何か博物館に関係のあるデータを提供できないものかと、私共に関連のある科学館（全国100館弱）のデータをインプットし、入館者の方に提供できる様にしました。

将来は博物館情報センターとして機能できる様に、システム改良し、データを集めたいと思って居ります。

各館の皆様、当館は博物館情報誌を多く保有して居りますので、図書館へ行かれるより、御相談いただいた方がよろしいかと思います。

座長 どうもありがとうございます。

名古屋市博物館や名古屋市科学館から素晴らしい話しをお聞きし、協会仲間としては、利用させていただかなければ損だと思いました。

ただいま大型館の方からお話を伺いましたが、私は小型館だからと言って卑下することは全くなく、むしろ小型館は小型館の誇りを持ってゆくべきだと思います。例えば、"そろばん"に関しましては、鈴木そろばん博物館ほど資料を持って居る館は他に例が無く、又、東南アジアの陶磁器類に関しては、ヨコタ南方美術館ほど資料を保有している館は他にあまり例を見ないと思います。

ですから、それぞれの館がそれぞれの特色を持って、この分野に関することは誰にも負けたくないものを持っていただければ、県全体としては随分と有力なものに成り、その分野での情報が広く集められると思います。同時に協会がこれら博物館の情報センターの役割を有してくだされば、加盟館としての協会に対するメリットも随分増大するのではないかと思います。

その点、ヒマラヤ美術館の方はどの様にお考えでしょうか。

ヒマラヤ美術館鈴木 私共は洋菓子屋が専門でございまして、社長が油絵の特に近代日本洋画を専門に収集しておりまして、6年前に本社を建てた折、2・3階を収蔵品の公開展示としてオープンした訳ですが、特に愛知県出身作家の作品については独立の展示場を確保して居ります。ただスタートしたばかりで、財政的な基盤も整って居りませんので、これと言った具体的

な運営についてはこれから考えてゆく段階でございます。常設展のみの美術館の運営ということ、今後も踏襲して行くことに成るかも知れません。

座長 ありがとうございます。

次に企業博物館と言えば失礼にあたるかも知れませんが、企業のバックアップで企画・設立された博物館香嵐溪へビセンターの方に企業博物館としての立場から何か協会に要望がありましたらお聞かせ願います。

博物館香嵐溪へビセンター杉山 へビセンターの杉山です。私共の館は株式会社ですから、先づ営利が伴わなければ成り立たなく、本来の博物館活動と異なる点が多少あるため、協会に対して直接参考になる事もあまりないかと思っています。しかし、加盟館で色々企画される事業や、会員の人々と色々お話しをすることにより、それを刺激として当館の活動に役立てば、と思っています。

座長 どうもありがとうございます。

加盟館の中には、部門別に色々な館があり、どの様に同居するかは協会としても難しい点があると思います。この打開策として来年度の事業計画の中に、部門別研究会の開催5回とありますが、この点に付きまして、事務局よりもう少し詳しく御報告願います。

協会事務局山田 先程の昭和57年度事業報告の中で御説明申し上げましたが、歴史・民俗系の郷土資料館の研究会実施の折に参加者よりこのような機会を他の部門にも拡大し初歩的な研究会を実施してほしい旨の要望がありました。その要望におこたえし、58年度には常滑民俗資料館の中野さんが中心と成り、歴史・民俗系の研究会を開催する計画があります。他の2回は美術系博物館の研究会と、自然系博物館の研究会をモンキーセンターを中心として開催してはと思っています。一応5回の開催を予定致して居りますが、皆様の要望があれば、回数を増す事も不可能ではありません。

座長 ありがとうございます。

私の実施したアンケートの中でも、研究会の項目中、部門別開催の要望が多いのが歴史・民俗系博物館です。他に地区別開催の要望がありましたが、これは東三河を中心とした館からの要望で、部門別研究会と同様に地区別研究会の開催も又必要ではないかと思っています。

次に特別展に関しまして、経費等予算的に困難な事も多いと思いますが、何か良いアイディアがありましたらお聞かせ願います。

岩田洗心館岩田 洗心館の岩田です。当館ではワードプロセッサを導入しましたが、これは経費的に大きな支出では無かったようです。従来展示名称・解説を

付けて居たものを全廃し、ワープロで作成した目録と、簡単な説明書を作製し、入館者に渡して居ります。これを以前と比較しますと、入館者の滞在時間が、ワープロで作成した目録を渡す様になってから、20%程長く成り、好評の様に思います。

座長 ありがとうございます。

外国へ行くと、この様な例が多く、展示室内は展示品だけで、入館者には目録・解説書を渡し、入館者は展示品と解説を見ながら、必要な展示品だけ詳細に鑑賞する姿がよく見受けられます。

次に知多民俗資料館の浅井さん、パネル作製等の件で何か。

知多民俗資料館浅井 浅井です。当館ではレタリングをする人から資料を借りてコピーをし、それを切り取ってパネルにする方法を取って居ります。写真もモノ黒を自分で焼き、パネル板（ベニア）を家具屋からもらって来て、自分で切って作製します。両面テープで付け、取り外しを可能にし、取り外したものは厚紙に張り、保存して居ります。

座長 ありがとうございます。

実は岩田さんや浅井さんにお話しいただいたのは、この様な研究会を開催しても良いのではないかと、言う事です。大型館ではこの様な事は、展示業者に依頼されておられるでしょうが、小型館では経費の点で関心のある事ではないかと思っています。

以上色々とお意見をいただきましたが、加盟館の増加に伴い、協会自体が資料情報・技術情報のセンター的役割を保有すべき時期に来ていると思います。

その他御意見ございましたら、どうぞ。事務局の設置をお願いしている陶磁資料館の浅田さん何か、

陶磁資料館浅田 資料館の浅田です。私は協会と加盟館の間には、協会と言う組織があって加盟館が存在するのではなく、個々の館があって協会組織が存在するのだと思います。そのように申しても、館・人それぞれ性格がありますので、協会がこれらの館・人を組織化して交流を密にして行く必要があらうかと思っています。昨年歴史・民俗系博物館の研究会を開催し、ある種の方向づけも得られた様に思いますが、この様な場で人と人との交流を計る機会を多く持つ必要があるのではないかと思います。

座長 ありがとうございます。

以上をもちまして意見交換を終了したいと思います。皆様の御協力に感謝いたします。

新加盟館紹介

和紙のふるさと展示館

所在地 〒470-05 西加茂郡小原村大字永太郎216-1

電話 <056565> 2151

交通 バス＝名鉄豊田市駅から上仁木行 和紙のふるさと下車（所要時間1時間）

自家用車＝猿投グリーンロード中山I.Cから瑞浪方面へ15km 駐車場(150台収容)

沿岸 近年小原和紙の愛好家が増加してきた現状のなかで、鑑賞と調査研究の場を提供し、伝統工芸・地場産業の振興・地域文化の発展と向上に資するとともに、心の豊かさを育む施設となる事を目的に愛知県が建設したものです。

設立 昭和57年11月6日竣工

昭和57年11月7日開館

施設 鉄筋コンクリート造2階建

延床面積 1,224.45㎡(展示室4:584.54㎡、収蔵庫 69.12㎡ その他 570.79㎡)

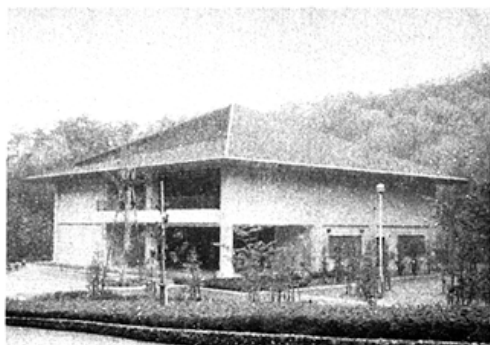
開館 9:00～16:30

休館 月曜日（祝日における場合は翌日）

12月28日～1月3日

入観料 大人 250円（ ” 200円）

小・中学生 50円（20人以上の団体 40円）



特色 1階全国和紙展示室では、全国の和紙製品を用途別に展示し、また紙の歴史・和紙生産地地図・紙人形による和紙製作過程模型などを展示。

2階小原工芸紙展示室では、翁の指導を受けた工芸家の作品を展示。

和紙は「ワビ」「サビ」の表現にも適した落ち着いた味があり、しかも多彩で百の種類があれば百の特質がある。腰の強さや肌の美しさ、薄さ、丈夫さといった和紙本来の特質が理解できる施設である。

収蔵品 藤井達吉関係資料

軸装…29幅 卷子…1巻

全国和紙関係資料…131点

小原工芸紙・一閑張等は寄託展示のため収蔵品はなし



常滑市民俗資料館

所在地 〒479 常滑市瀬木町4-203

電話 <05693> 4-5290

交通 名鉄常滑線常滑駅下車、知多半田行バス草木口バス停下車 徒歩7分 陶芸研究所西隣

沿岸 古代末期より受け継がれてきた常滑窯業は、その製品や生産技法などにさまざまな変遷を繰り返しており、その歴史はわたしたちにかげがえのない遺産を残しています。常滑市では、こうした郷土の歴史・文化遺産を積極的に保護・活用していくことを主目的に、昭和56年窯業民俗資料を中心とした資料館を開館しました。

設立 昭和56年4月7日

施設 鉄筋コンクリート造2階建

敷地面積 8,414㎡ 延床面積 1,596㎡

常設展示室 306.7㎡ 特別展示室 88.1㎡

開館 9:00～16:30

休館 毎月曜日・祝日・12月28日～1月4日

入観料 無料

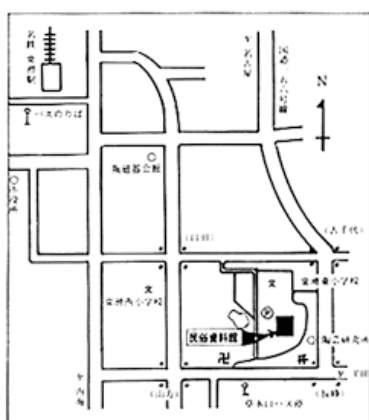


特色 当資料館では、900年にわたる歴史をもつ常滑窯業の中でやきものづくりが機械化される以前の生産用具・製品等を通し、やきものと

人間との関わりを主題とした展示を行なっています。

歴史部門では、やきものの発達史をテーマに学術調査により市内の遺跡から出土した考古資料が展示されています。民俗部門では、国指定重要有形民俗文化財「常滑の陶器の生産用具及び製品」のうちから約300点を選び、工程順に展示してあります。また、ビデオ（2台）・スライドといった視聴覚機材も活用されています。〔常設展示室〕

特別展示室では、年3回の特別展とその合間を利用した企画展を行ないます。



吉良町歴史民俗資料館

所在地 〒444-06 幡豆郡吉良町大字白浜新田字宮前
59番地1

電話 <05633>2-3373

交通 名鉄西尾線吉良吉田駅 - <名鉄バス7分> -
吉良文化広場前下車

沿岸 本町は三河湾国定公園内に位置し、農業と水産の町である。歴史的にも由緒ある町で古墳・遺跡・民俗資料など多く残されている。このような多くの文化的遺産を正しく後世に伝える施設を必要とする機運が高まってきた。こうした背景のもとに県事業である吉良地区文化広場の建設が進められ、これにあわせ文化広場の一角に「郷土文化の発展と教育学習の基点」として歴史民俗資料館の建設を進め、昭和57年3月竣工した。

設立 昭和57年4月1日 昭和57年5月14日開館

開館 9:00~16:30

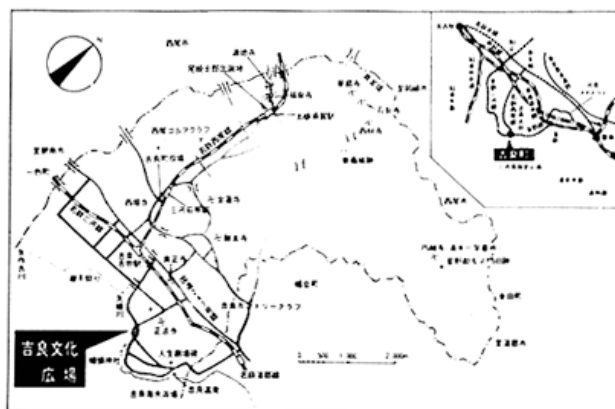
休館 毎月曜日・祝日の翌日・12月29日~1月3日
臨時

入観料 無 料



特色 展示室面積210㎡で「総合案内・町誌ゾーン」「文化財案内ゾーン」「古墳出土品ゾーン」「建造物ゾーン」「産業・生活・民具ゾーン」「特設展示ゾーン」に分け、町内の文化財所在地を示すパネル、町史年表、県指定の岩場古墳出土品をはじめとする町内の古墳、遺跡からの出土品、古墳模型、建造物写真、生活民具用品と製塩用具、郷土の名君「吉良義央公」の遺産の一つで一夜にして築いたといわれる黄金堤写真パネル（縦3m・横7m）などを展示している。

館外には、塩田及び塩焼小屋の模型があり、当時の製塩法を学ぶこともできる。



「愛知の博物館」No.34

発行日 昭和58年 月

編集・発行 愛知県博物館協会

〒489 愛知県瀬戸市南山口町234番地

愛知県陶磁資料館内

<0561> 84-7474